

令和7年度 外国語 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

- 問題の内容別正答率では、6年生は9項目中9項目全てにおいて目標値を上回った。
- 領域別正答率では、6年生は3領域中3領域全てにおいて目標値を上回った。
- 観点別正答率では、6年生は2観点中2観点において目標値を上回った。

領域別正答率

	全体	聞くこと	読むこと	書くこと
目標値	75.9	75.0	75.7	77.0
校内平均正答率	83.9	84.4	80.7	84.6
ポイント差	△8.0	△9.4	△5.0	△7.6

【観点別正答率の分析】

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回った。 どの大問の正答率も目標値を上回っていた。特に単語や表現の意味理解・単語の読みにおいて目標値を大きく上回った。 しかし、アルファベットの読みについては、一部問題で目標値を下回るところがあり、課題が残る結果となった。	目標値を上回った。 どの大問の正答率も目標値を上回っていた。特に英作文の活用問題においては大きく上回った。しかし会話全体の理解においては、一部問題で目標値を下回るところもあり、会話を聞き目的や場面、状況を推測する点に課題が残る結果となった。	英作文においては、例文を参考にしながら自分のことについて、全4問書く問題があり、4問中3問で、目標値・平均を大きく上回った。一方で、自分の名前を記述する基礎的な問題でのみ平均を下回っていた。

課題〈今回の調査結果から〉

- 日常会話に関する対話において、目的や場面、状況などを推測する力に課題がある。日頃の授業で文章を読んだり、指で追ったりして慣れ親しんでから、アルファベットや短文を書く練習を取り入れる。
- 日頃の授業で、アルファベットや基本的な単語、名前等を四線上に書き込む帯活動を行い、児童が英語の記述に慣れ親しめるようにしていく。